



5 コミュニティネットワーク・宝（南区）

地域自主防犯活動活発化促進事業

実施結果報告書

1 団体名	コミュニティネットワーク・宝
2 事業名	子ども・女性（高齢者を含む）が安全に暮らせる地域づくり
3 事業実施 結果	<p>今年度は昨年からの継続活動を実施しました。</p> <p>内容としては約2年行動・活動が制限されて前年できなかった活動ができることを期待して、不審者対策・不審者による付きまとい対策を継続実施することにしました。</p> <p>☆小学生さらに中学生に対しての講話等の啓発活動 ☆子育て世代に対する啓発活動 ☆その他の世代に講話・街頭での啓発活動、以上の世代別に行うこととした。 ☆さらに地域としての見守り活動も行うこととした。 以上を目標に活動を行いました。</p> <p>まず、10年以上前に小学校PTAがラミネート加工で作成した自転車前かごに取り付ける防犯プレートが古くなったのと、取り付け台数が減ったので新調して再度希望者に配布した。今回の物は光が当たると文字が反射して夜でも見えやすくした。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>前かごプレート</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>プレートを取り付けた自転車</p> </div> </div> <p>配布方法は学区にお願いして広報誌を発行して各町内回覧で希望者を募り、小学校の保護者に対しては学校を通じ募集してもらった。 夜も反射することで、日暮れの早い冬は特に安心です。</p>

次に、小学生に対して昨年は対面で講話ができなかったが、今年度は緊急事態宣言が解除され、小学校が交通安全教室を1年半ぶりに再開すると連絡があり、お手伝いを依頼されたため、全校児童の前で話しをさせてもらうようお願いをして、10分ほどでしたが不審者対応、絵を使い合言葉の説明をしました。(合言葉下記を参照 愛知県警監修)

つ ついていかない
み みんないつもいっしょ
き きちんと知らせる
お 大声で助けをよぶ
に にげる

声をかけられても知らない人についていかない。
遊ぶ時は一人ではなく、みんなと一緒に。
声をかけられたら、おとなに知らせる。
大声でまわりの助けを呼ぶ。
その場から逃げる。



児童への啓発品
ライト付き防犯ベル
チラシ同封



体育館での風景

マスク越しでしたが、翌日子どもたちにあつた時、顔を覚えてくれていました。声かけもしてくれました。そのようなことがしばらく続きました。

子育て世代に対しての啓発活動は学区児童委員が行っている、子育てサロンで実施しました。乳幼児のお母さんを対象としたサロンで子どもを見ながら、雑談形式で行いました。(啓発品はライト付き防犯ブザーとマスク)

少人数でしたが、対話形式で一方的ではなく、意見などを出し合えてよかった。危険と思われる場所・声かけされたなどの意見が出た。

その他の世代、まず高齢者は昨年度と同じように「たから元気サロン」参加者に対し10月・12月の2回実施しました。不審者対策・地域の子どもの見守り等をお願いし、見かけた事例はないかと聞き取りをしました。一方通行ではなく、対話形式でおこないました。日暮れが早い時期だが遅くまで遊んでいる子どもを見かけるとの意見をいただきました。それらは学校に報告して対応をお願いしました。



「たから元気サロン」での
講演風景

その他の世代の不特定多数の方には、学区生活安全パトロールの期間に実施しました。

年金支給日の12月15日に、学区内にある金融機関前で啓発活動を実施しました。当日は南警察署生活安全課より課長以下3名・南区役所から1名・愛知県庁から担当者1名の参加協力を得て行いました。一人一人に声掛けをして注意喚起を行いました。



金融機関前での啓発活動



寄せられた意見としては、不審者からの詐欺電話、人とあまり会えないから何となく不安という意見がありました。

緊急事態宣言が解除されたため、学区の民生委員さんが「一人暮らし高齢者への交流会食」を再開。地域コミュニティーセンターにお弁当を受け取りに来てもらった時に、血管年齢測定の待ち時間に、10人程度の前で数回講話を実施しました。啓発品も配布しました（マスク・ライト付き防犯ブザー）

<p>4 成果と課題 及び今後の 取組み</p>	<p>(1) 事業実施の成果及び課題 今年度は、感染症対策を行いながら対面での活動ができた。 多くの人、幅広い世代への一方通行でなく、対話しながらの活動ができた。 子どもたちの様子を地域の方に教えてもらい、気になる点、公園等の遊び場の問題点などの意見が聞けた。 対面できたことで、活動している側の顔を知ってもらえたことはよかった。</p> <p>(2) 今後の取組み 昨年度、今年度と行った、子ども・女性に対する不審者・付きまといなどがない安全な地域活動を2022年度も継続して活動していきたい。 コロナ禍で人に会えない時を過ごし、人と人がつながる方法を試行錯誤しながらできる活動が見えてきたように思える。正しく感染症の予防をしながら世代を超え啓発活動を継続していきたい。</p>
----------------------------------	--